

委員長挨拶

……ぜひ投票に行きましょう！……

投票のポイントとしては、期日前投票制度を利用すること（期日前投票所は、調べれば簡単にわかる）や地方区、比例区とも個人名を記入することです。場所によっては、投票済証を発行する所もあります。宮城県医師連盟への開業医の入会比率は、残念ながら50%を切っており、全国平均約70%と比較しても極めて低く、ワースト4です。この少ない人数ではありませんが、周囲の方々をお誘いいただくことや、何よりも連盟会員の医師が必ず投票に行くことで、ある程度はカバーできると思っています。政治は嫌い

参議院選挙は、6月22日（水）に公示され、7月10日（日）に投票と決まりました。私たち宮城県医師連盟としては、今回はぜひ投票に行き自分たちの意思表示をきちんと行いたいと思っています。



宮城県医師連盟委員長
佐藤和宏

参議院選挙公示される

だ、選挙には行かないという医師もいますが、それでは政治力は発揮できず、私たちの意に沿わない医療改革が次々に押し寄せてくると思います。その時に「医師会が悪い」と文句を言っても遅いと思います。

押し寄せる医療改革の波！

実際に、財政制度等審議会は「春の建議」をまとめ社会保障分野でも様々な提言を行っています。関連する報道をまとめると、1. かかりつけ医の法制化（認定制度、事前登録制）2. 社会保障給付費を対GDP比などの指標で管理すること、3. リフィル処方箋の普及、4. 医療法人の事業報告書の電子開示（匿名でだけでも手軽に閲覧可能となる）、5. 医療機関のコロナ対応実態の公表、6. オンライン診療のシステム導入の原則義務化、以上は私たち医療者にとっては極めて厳しい提言となっています。これらが実現されたら、経営的にも全く困ってしまうこと必定です。

医療費を抑制する根拠は？

コロナ禍で16兆円程度を医療提供体制の強化のために使用した、これは多額の例外的な財政

出動だ、だから今後は社会保障費、ことに医療費は削減するしかないという論理であると思います。財政当局としては、そう考えるのだと思いますが、まず何にいくら使用したのかを教えしてほしいと思います。ワクチンの購入費用5兆2千億円も含まれているのか、コロナ受け入れ病床にはいくら使用したのか、発熱外来支援金は総額いくらかなどを知りたいところであり

ます。いずれにせよ、医療側と財政側とは社会保障費を巡っては、以前からかみ合わないところであり、仕方がないと思います。政治の力は、これらを少しでも私たちにとって良い方向に向かわせる唯一の力だと考えます。もちろん、国民の力も必要です。

今回はぜひ投票に行きましょう！

投票することは、私たちの意思表示ができるもとも身近な方法であり、これを軽視してはならないはず。期日前投票を行い、地方区、比例区とも候補者名を書きましょう。今年の夏はぜひ熱く燃えて、投票に行こうではありませんか！



令和4年度宮城県医師連盟常任執行委員会

参議院議員宮城選挙区候補者推薦

令和4年4月13日（水）、本連盟常任執行委員会をテレビ会議方式で開催した。第26回参議院議員通常選挙宮城選挙区の候補者について、佐藤和宏委員長から、自民党公認が決定した桜井充氏を本連盟推薦候補者とする提案がなされ、満場一致で推薦を決定した。



桜井充氏を推薦決定!

第26回参議院議員通常選挙宮城選挙区の候補者については、令和3年12月15日に開催された本連盟常任執行委員会において、自民党公認候補が決定後に再度常任執行委員会を開催し、推薦候補を決定することとなった。令和4年4月12日に自民党宮城県連より、今般の参議院議員選挙の公認候補に桜井充氏が内定した旨、連絡が入り、これを受けての推薦決定となった。出席した委員からは、「自見はなこ先生の後援会活動にもプラスの要素。二人の後援会活動を戦略立てて行っていくことが必要だ」という意見が出された。また、自見はなこ後援会活動について「現状サポーター名簿等の回収状況が危機的であることを再認識し、気を引き締め直して地道に活動していくことが必要だ」との意見があった。



自見はなこ 総決起大会



日本医師連盟 中川俊男委員長



決意表明をする自見はなこ参議院議員



桜井充参議院議員



衆議院議員を代表して激励をする西村明宏自民党宮城県連会長



羽生田俊参議院議員



宮城県柔道整復師会 櫻田裕会長



宮城県議会 菊地恵一議長



仙台市議会 佐藤正昭元議長



ガンバローコールの音頭をとる
米谷則美常任執行委員



宮城県医薬品卸組組合
鈴木三尚理事長



仙台市医師連盟
安藤健二郎委員長



——
**引き続きのご支援を
よろしくお願ひします！**——

宮城県医師連盟は、令和4年5月14日（土）、ホテルメトロポリタン仙台において、自見はなこ総決起大会を開催した。西村明宏自民党宮城県連会長や桜井充参議院議員、羽生田俊参議院議員をはじめ、宮城県議会、仙台市議会から多数の政治家が出席した。また、中川俊男日本医師連盟委員長や郡市医師連盟、各推薦団体からも多くの関係者が参集し、自見はなこ参議院議員に激励を送った。出席者は総勢約200名にのぼった。

宮城県医師連盟執行委員会

表 令和3年宮城県医師連盟収支決算

期間収支計算書（令和3年1月1日～令和3年12月31日）

収入	会費	22,515,000
	政治団体からの寄付 ※日医連交付金	4,482,000
	その他の収入 ※銀行預金利息等	100,918
	繰越金	31,972,859
	合計	59,070,777
支出	経常経費（A） （人件費、光熱水費、備品費、事務所費）	2,382,660
	組織活動費（B）	4,495,227
	・大会費	861,831
	・交際費	382,606
	・組織対策費	3,231,550
	・行事費	19,240
	調査研究費（C）	29,200
寄付、交付金（D）	21,440,000	
	合計（A）+（B）+（C）+（D）	28,347,087
	収入支出差引残 ※令和4年へ繰越	30,723,690

【令和4年会費賦課】
令和4年宮城県医師連盟会費賦課について、登米祐也会計責任者職務代行者より、「例年通り年額3万6千円とさせていただきますので、執行委員の先生方の承認をお願いしたい」と提案した。審議の結果、令和4年の会費は原案通り承認された。

【令和3年収支決算】
令和3年宮城県医師連盟収支決算について、板橋隆三会計責任者が配布資料に基づき収支内容の説明と報告を行った（表参照）。また、及川正道会計監督者より監査報告を行い、特に質問はなく全会一致で令和3年収支決算を承認した。



板橋隆三会計責任者



登米祐也
会計監督者職務代行者



及川正道会計監督者

宮城県医師連盟は、令和4年5月14日（土）午後6時より執行委員会を開催した。日本医師連盟より中川俊男委員長も出席し、「令和3年収支決算」「令和4年会費賦課」について審議を行い全会一致で承認。また、「第26回参議院議員通常選挙」に向けて、自見はなこ参議院議員、桜井充参議院議員から決意表明があった。



日本医師連盟
中川俊男委員長

自見はなこ参議院議員よりご寄稿いただきました



佐藤和宏委員長はじめ宮城県連盟の先生方におかれましては、平素より格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げますとともに、コロナ医療と通常医療両方での医療提供体制維持、自宅待機者の健康観察、ワクチン接種など献身的にご尽力いただいている先生方に深く敬意を表します。

宮城県医師連盟、日本医師連盟から推薦決定をいただいた第26回参議院議員選挙が、いよいよ迫ってまいりました（6月22日公示、7月10日投票開票予定）。何としても勝利し、引き続き先生方のお声を国政に届けるべく、全国を奔走する日々を送っています。

わが国が世界に誇る国民皆保険制度を守るためには、財政論ありきの医療費削減路線を改めなければいけないことは、図らずもこのコロナ禍で浮き彫りになりました。「かかりつけ医」の制度化についても、医師と患者との全人的な信頼関係に基づく本来の「かか

患者目線での医療アクセスを守る

りつけ医」のあり方と相反するものと考えます。本年4月14日の参議院財政金融委員会でも、鈴木俊一財務大臣への質問でかかりつけ医が果たす役割の重要性を説き、患者目線での医療アクセスを守るよう強く求めました。また、4月26日の同委員会においても質問に立ち、国民健康保険組合への国庫補助の見直しに際しては、運営の実態をしっかりと踏まえるよう強く求めました。リフィル処方箋についても、処方権は医師が患者に医療を施すという重大な責任と不可分という大前提から、考え直す必要があります。

また、超高齢社会にあるわが国において、子どもたちの健やかな成長の強力なサポート体制づくりが抜本的な少子化対策のためにも求められます。5月18日の参議院本会議で初の代表質問に立ち、「こども家庭庁」創設にかけ岸田総理の決意を伺い、「強い司令塔機能のもと、必要な支援が抜け落ち

ることがないよう総合的かつ包括的に政策を進める」と力強い答弁をいただきました。

改選まで残りわずかな期間となりましたが、何としても勝ち抜き、先生方のお声を国に届ける役割を担い、政策の継続性をもって取り組んでまいります。

そのほかにも、2024年から医師の時間外労働規制適用開始を前に、スチューデントドクターの法制化やタスクシフト・シェアについて定めた医療法等の改正が昨年成立し、地域医療を守りつつ加重労働を防ぐための働き方改革見直しの議論も本格化してまいります。HPVワクチンの積極的勧奨再開も今年度から実現しました。コロナ後を見据えた外国人医療の問題も、しっかりとフォローしていかなければなりません。

宮城県医師連盟の先生方におかれましては、ぜひとも支援の輪の拡大に向け一人でも多くの方にお声がけいただき、最後の最後までお支えください。すよう衷心よりお願い申し上げます。また、個人名での得票が多いほど党内での順位が上がるといふ参議院比例代表の投票制度についても、まだまだ理解が広がっていない現状があります。この点の啓発についても、お力を賜りますようお願い申し上げます。

現在、国会日程が許す限り全力で飛び回っております。公示日まであとわずかとなりましたが、宮城県医師連盟の先生方の力強いご支援をエネルギーとして、勝利に向け粉骨砕身頑張ります。



自見はなこ 参議院議員

参議院比例代表は「個人名での得票が多いほど党内での順位が上がります」



応援演説をする佐藤和宏委員長

星北斗 時局講演会



決意表明をする星北斗福島県医師会副会長

令和4年4月3日（日）、郡山ビューホテルアネックスにおいて、星北斗時局後援会が開催された。本連盟から佐藤和宏委員長が出席した。根本匠自民党福島県連会長や羽生田俊参議院議員をはじめ、中川俊男日本医師連盟委員長、東北各県医師連盟委員長など、各地から多くの方が応援に駆けつけた。

福島にお知り合いのいる先生方、星北斗先生をよろしく願います！！

桜井 充 参議院議員よりご寄稿いただきました



桜井 充 参議院議員

「自立できる国家を目指して」

宮城県医師会の先生方には、日頃からご支援賜りありがとうございます。コロナ対応や日々の診療にご尽力いただいておりますことに、感謝と敬意を表します。

先日、この夏に向けて開催された「励ます会」においては、私もお招きいただき、激励のお言葉を頂戴いたしました。改めてありがとうございます。夏本番に向けて、自らの立ち位置を

明確にすることができましたのも、宮城県医師会の先生方の日頃のご支援あつてのことです。皆さまのご期待に応えられるよう、これまで以上に努力してまいります。

さて、世界の国々は、新型コロナ感染症やロシアとウクライナの戦争を経て、自分たちの国の在り方を考え始めています。それは我が国も同様です。我が国はマスクの供給を中国に依存し

ており、そのためコロナの流行初期には、マスクを確保することも大変でした。外国に依存しているのはマスクだけでなく、例えば薬の原末も、中国やインドで作られたものを輸入しています。仮に原末が入手できなくなれば、我が国では薬を作れなくなってしまう。

今年に入ってから、ロシアとウクライナの戦争によって小麦の価格が高騰し、さらにロシアからの天然ガスの輸入を止めたために、エネルギー問題が生じています。私はこれらの経験を踏まえ、我が国は「自立できる国家」を目指していくべきであると考えます。「自立できる国家」とは、軍事だけでなく、経済や食料、そしてエネルギーの安全保障を確立した国家のことです。

我が国は食料の輸入大国ですが、一方で、国内では米余りが起きています。米の値崩れを防ぐため減反によつ

国民皆保険制度の維持を仲間とともに

て米の生産量を減らそうとしています。それが、それでも米は余っています。それは、食の多様化により、米飯食が減り、パンの消費が増えているからです。米の消費を増やしていくためには、小麦で作られているパンを米粉のパンに変えていくといった対策が必要になります。米粉のパンが以上に普及すれば、米の需要が増え、食料の自給率が上がるだけではなく、農業の活性化にもつながっていきます。また、小麦アレルギーの子供たちはかなりいますが、米アレルギーの子供はほとんどいないので、この点からも米の消費を増やしていくべきです。

エネルギーの安全保障も大切です。太陽光だけでなく、バイオマスの活用や、海底に眠っているメタンハイドレートの採取の開発を行うことにより、国内でのエネルギー自給率を上げていくことが重要です。

このように、周辺国で有事が起きた際も、国民の皆さんの生命と財産、そして安全を守ることができ「自立できる国」を作り、私たちの次の世代、さらに次の世代へと、この素晴らしい日本を継承できるように、努力していきたいと考えています。国づくりのためには、政策を長期的に、かつ安定的に実行していくことが求められます。それが可能な政権の中で、しっかりと務めを果たしてまいります。

最後に、私も医療従事者の一人として、国民皆保険制度を堅持するために活動を続けてまいりました。しかし、国民皆保険制度の維持は、私一人の力だけで実現できることではありません。この考えに賛同してくださる仲間とともに、今後も力を尽くしてまいります。

編集後記



宮城県医師連盟会計責任者
板橋 隆三

編集後記を作成中にビッグニュースが飛び込んできた。次期日本医師会会長に立候補する旨を公表していた中川現会長（兼日医連委員長）が、現役の役員内から立候補者が出て二者による会長選挙が予想されることより、7月の参議院議員選挙前の分裂による医師会弱体化を避けるため立候補を辞退すること。相変わらず医師会は一枚岩となれていない。優秀な（成績の良い）集団だがいゆるゆる頭はあまり良い集団とはいえない。このニュース、勤務医が50%を超えた医師会を今もって開業医のための圧力団体としかみなしていないマスメディアやジャーナリストは大喜びだろう。SNSや週刊誌は大賑わいである。もっとも、医師会、つまり会員にも責任はある。およそ18万人が所属する組織の候補が、15万票ほどしか取れない。医療福祉関係候補で10位内にも届かない。「新型コロナ対策で8兆円も出したのだから診療報酬を+改定の要求などしないよね」と責めるお役人に反論しようにも得票数がこれではね。自見・桜井両候補には、たくさんの知己役人や議員を通しての姑息な働きかけとか、権力者と親しいとかではなく、多数の国民の応援を背景に正論かつ正攻法での政治活動を応援したい。